（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立岱志高等学校　全日制課程　令和３年度（２０２１年度）学校評価表

１ 学校教育目標
１　夢（志）を描き、夢の実現への挑戦‥‥志を育み、励まし、鍛え、伸ばす ２　心の教育の充実‥‥自己肯定の心と命を大切にする心、郷土を愛する心の育成 ３　生徒指導の充実‥‥基本的生活習慣の確立及び自律心の育成 ４　確かな学力の育成‥‥基礎・基本の確実な定着。個に応じた指導の充実

２ 本年度の重点目標
（１）特色ある学校づくりを推進する。 （２）学力の向上と進路保障の取組を強化する。 （３）健全な心身を育成する。 （４）安心・安全な学校を維持する。 （５）地域社会に期待に応え、活力ある学校づくりに努める。

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価 A～D	成果と課題
学校経営	安全・安心な学校づくり	○事前の危機管理の徹底	○いじめ及び重大事態の未然防止	○「熊本県いじめ調査委員会調査報告書」の提言に基づく学校改善の取組のPDCAの徹底	B	○５月に改善計画を策定した。授業規律の回復と言語環境の整備は継続課題である。
		○災害発生時における安全確保	○年２回の防災避難訓練実施（事前学習含む） ○荒尾市総合防災訓練への参加	○実践的な防災避難訓練の実施とその事後評価に伴う防災マニュアルの見直・改善	C	○コロナ禍の影響で十分な避難訓練ができなかった。 ○総合防災訓練は多数の職員が参加した。曜日を見直す必要あり。
	学校の活性化	○地域、中学校、保護者への情報発信 ○学校ＰＲと情報発信	○前期定員の充足 ○受検者数１００名以上	○ＨＰの即時更新 ○体験入学の充実 ○中学校へ学校広報誌の配付 ○マスコミ等へのプレスリリース、取材掲載	A	◯公式YouTubeチャンネルを開設し、HPとリンクさせ、学校紹介動画を配信できた。ブログ等の更新が十分にできた。 ◯魅力を伝えることができた体験入学であり、参加者から好評であった。 ◯岱志高通信を２度発行し、中学校へ出向いて直接配布できた。 ◯各行事等において、マスコミから取材を受け、数多く新聞等に記事が掲載された。
		○開かれた岱志高校の実現	○本校の特色を生かした学校づくり ○地域への公開授業の実施	○荒尾市の支援事業と提携した学校づくり ○地域や管内中学校への公開授業の案内	B	◯「FMたんと」のラジオ番組を企画し、本校生徒が地域に情報を発信することができた。 ◯地域等に向けた公開授業、研究授業は実施できなかった。
	業務改善及び働き方改革	○労働時間の縮減 ○働く意欲の向上	○「県立学校の教職員の在校等時間の上限」の遵守 ○ＯＪＴの推進と業務への適切な評価	○本校の部活動の指針の遵守 ○職員一人一人の業務の把握と適正な評価	A	○部活動指針の遵守ができた。 ○コロナ禍の中、昨年と比較して超過勤務時間は減少した。意識は確実に高まっている。 ○アンケートでは、充実した勤務ぶりが確認できる。
学力向上	授業を主体とした学力向上の取組	○３年間を見通した計画的な授業の	○シラバスに基づいた授業時数の確保	○教科ごとのシラバスの作成と効果的な活用	A	◯シラバスを作成し、生徒へ学習目標、学習内容、評価方法などを示すことができた。

		実践				
		○分かる・できる授業の工夫・改善	○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善（授業評価の活用） ○UD（ユニバーサルデザイン）の視点からの授業改善 ○ＩＣＴを活用した授業の充実 ○授業参観の充実 ○全教科研究授業の実施	○授業評価による実態把握と分析（７月、１２月） ○教育センター指導主事やスーパーティーチャーを招いた研修の実施 ○教務部企画による研究授業、授業参観週間の推進（研究授業強化月間を通じての授業の工夫改善） ○ＩＣＴを活用した研究授業および実践事例を用いた研修の実施	B	○授業評価は実施し、分析を授業改善に活かすよう努めた。 ○スーパーティーチャーを招いた授業研究を実施できた。 ○研究授業等の実施は少なかったが、本校職員同士で授業参観を行い、授業改善に努めることができた。 ○研究授業には至っていないが、ＩＣＴ機器が導入され、意欲的に機器を活用するようになった。ＩＣＴ支援員による実践事例研修を行った。
	自学力の醸成	○生徒自ら学ぶ姿勢の確立及び学び力の向上	○定期考査前１週間の家庭学習時間平均１５０分以上	○定期考査前１週間と考査期間中の家庭学習時間調査の実施と分析	B	○調査結果をクラス、教科単位で学習指導に活かすことができるように集計、提示した。
		○目標に向かって地道に努力を積み重ねる生徒の育成	○基礎的・基本的な内容の定着	○夕学習会の充実 ○ネットやＩＣＴを活用した自学指導	B	○夕学習会の充実を図った。 ○授業等で、ネットを活用した学習コンテンツを紹介したり、実際に活用したりすることで、自学での活用を促した。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	○自己理解と職業理解	○オープンキャンパスや企業見学へ学年で１回以上参加し、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解推進	○インターンシップ、企業見学、進路の日（校内の進路学習）、保護者ガイダンス、校外ガイダンス、オープンキャンパス、ポートフォリオ等	A	○校内での活動に重点をおき、Ｗｅｂや動画教材を活用して職種や企業について理解するとともに、キャリアサポーターとの面談をとおして自己理解と職業理解を深化させた。
		○主体的な進路選択	○進路目標の明確化 （暫定値） １学年：６０％ ２学年：８０％	○進路の日（校内進路学習）の充実、進路のしおりの活用、三者面談、進路志望調査、進路講話	B	○進路の日をはじめ、各学期に学年に応じた進路行事を計画的に実施し、進路意識を高めることができた。 ○LHRや保護者会で生徒及び保護者に進学・就職に関する説明を行った。また、進路のしおりはLHRや面談で活用した。 ○進路志望調査を６、１１月に実施した。進路志望が定まっている（なんとなくを含む）生徒は、１１月調査で１学年５２％、２学年６９％だった。
	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	○基礎学力の定着	○基礎力診断テスト第１回テストから第２回テストへのＧＴＺ上昇 ○夕学習会進学発展コース参加者の学力向上・家庭学習の充実	○基礎力診断テストの実施、事前学習教材の活用、分析会の実施 ○夕学習会の充実、模擬試験の実施	B	○基礎力診断テスト２回目は事前学習教材を活用することができ、１年生５０％・２年生６５％の３教科総合成績（GTZ）が上昇した。また、テスト実施後は各学年分析会を行い、情報の共有ができた。 ○夕学習会受講生には補填、発展的な指導ができ、学力向上につながった。
		○自己理解の定着	○面接・小論文及び志望理	○面接・小論文及び志望理由書の書き方等の	A	○職員に対して、志望理由書の書き方等に関する研修を実施

		と個に応じた学習指導	由書の書き方等の指導・対策、小論文模試の実施	指導力向上、研修実施		し、オンライン研修の機会も設けた。小論文模試は実施していないが、各学年で必要に応じた文章指導ができた。
生徒指導	生活指導の充実	○「岱志五原則」に則った基本的生活習慣の習得	○年６回の頭髪服装指導と毎朝の登校指導の実施による違反者、遅刻者等の減少	○服装頭髪検査事後指導の一元化と徹底 ○登校指導、あいさつ運動の実施、遅刻者の正確な把握と事後指導の徹底	B	○遅刻者の割合が減ったが、回数の多い生徒への指導まで至らなかった。
		○問題行動の未然防止と発生後の対応	○日常の指導の機会、講演会等による規範意識の涵養 ○問題発生後の速やかな実態把握、指導方針の明確化と育成的な指導	○登校指導、あいさつ運動の実施、遅刻者の正確な把握と事後指導の徹底 ○貴重品管理の随時指導及び移動教室の際の施錠徹底 ○関係各所等の積極的な巡回	B	○コロナ禍の中ではあったが、オンラインで講演会をするなど、生徒への啓発はできた。 ○問題行動後の事後指導により改善されているが規範意識を高めるところまではできなかった。
	交通安全教育の充実	○交通マナー及び危険予知能力の育成	○交通事故件数の減少	○登下校指導の徹底 ○交通講話の計画・実施 ○荒尾警察署との連携	B	○生徒会による交通安全の啓発活動ができたことにより交通事故等も減少した。
			○二重ロック率の向上	○自転車ステッカー点検 ○鍵かけ運動の実施	C	○自転車等の安全管理の徹底ができなかった。
			○原付通学生の違反や事故防止の徹底	○年２回の原付実技講習の実施 ○原付通学生登校指導の実施	C	○原付取得までの手続き等はできたが交通安全に対する指導等ができていなかった。
	生徒会、委員会活動の活性化	○部活動の充実	○部活動加入率９０％	○学期ごとに部活加入を推進する機会の設定	C	○部活動加入に対する啓発が不足した。
		○生徒会活動の活性化	○生徒を主体とした学校行事の運営	○生徒会・ボランティア部、学年による広報・啓発 ○生徒会・各部長を対象としたリーダー研修の実施	B	○生徒会が中心となり情報モラルや交通安全との啓発活動ができるようになった。
	保護者、地域、関係諸機関との連携	○ＰＴＡ、各校種、関係機関等との情報交換による問題行動の未然防止	○保護者や地域からの情報を即座に収集する組織づくり	○若草会に毎回出席し本校生徒の現状や地域の現状を把握 ○ＰＴＡ役員会等における情報収集	B	○地域、各学校と連携して生徒指導ができた。 ○PTＡとの情報交換の場を設定できなかった。
人権教育の推進	研修の充実及び系統立てた人権教育の実践	○校内外の研修の充実	○土台となる内容を人権教育推進委員会で検討	○職員研修の中身を事前・事後に検討し、次年度へつなげる	B	○研修内容を早期に確定できず、直前になって決定した。
		○系統立てた特設授業の実施	○特設授業を各学年で年間１回以上実施	○教務部、各学年との連携による計画的実施	B	○実施はできているが、授業内容検討が後手になった。
	命を大切にする心を育む指導の実践	○人権擁護に関する意欲・態度の涵養	○「平和と人権の集い」の実施、「心と命の取組」を通年で実践	○人権教育係が企画し、学年部と連携し全校集会やＬＨＲ等で実施	B	○「心と命の取組」は職員によるリレーエッセイとして通年でできている。「平和と人権の集い」は中止。
		○生命の	○各教科、各	○各教科・各領域で実	B	○各教科・各領域における実践

		大切さを理解し、自他の生命を尊重する生徒の育成	領域における「命を大切にする心」を育む指導の実践	践、研究及び連携		はあるが、把握ができず、調査・整理する必要がある。
いじめの防止等	いじめの未然防止（重大事態の再発防止）	○いじめの未然防止	○「いじめの未然防止指針」の策定 ○各マニュアルの見直し ○岱志高校の「新しい生活様式」の策定と実践	○全職員の意見を取り入れた指針の策定と遵守 ○各マニュアルの改訂 ○「生徒の小さな変化を見逃さない」ことの実践	B	○熊本県の基本方針に基づいて本校の基本方針を策定した。 ○岱志高校の「新しい生活様式」を策定し徐々に生徒の実際の行動につながっている。
	いじめの防止及び健全・良好な人間関係の構築	○いじめを防止するための組織的な取組	○いじめを防止するための情報交換 ○いじめが発生したとき迅速な対応	○全職員で生徒の普段の学校生活を観察 ○職員が主体的に参加する研修の実施	B	○研修等による啓発で職員全体のいじめ防止に対する意識が高まった。 ○初動対応に対する職員の対応方法の統一化が課題である。 ○市が開催する連絡会に参加し、情報を共有した。
		○いじめを起こさない環境づくり	○言語環境の整備 ○教育相談、道徳教育及び体験活動の充実による互いを認め合う関係の構築	○授業等における適切な言語の使用 ○「心のアンケート」を学期ごとに実施 ○担任面談の充実 ○１年生１学期にコミュニケーションプログラムＬＨＲの実施	B	○生徒に対する粘り強い指導が必要である。（言語環境の改善） ○アンケート結果をもとに、必要な生徒へのSC面談を実施し、SSWにつなげることができた。職員全体のカウンセリングスキルの向上が課題である。
特別支援教育	特別支援教育指導力の向上	○特別支援教育に関する職員の意識向上	○障がい特性や多様性（ダイバーシティ）に関する職員の理解の深化 ○ユニバーサルデザインに基づく学級・授業づくりの推進	○特別支援教育に関する研修・啓発の実施 ○生徒理解研修の実施 ○生徒支援相談会の実施 ○巡回相談等による専門性の共有 ○「岱志高校における特別支援教育のスタンダード」の改定・更新	A	○研修や相談会について、研修内容を十分に検討し、計画通り実施することができた。また、関係機関との連携も積極的に行うことができた。 ○生徒の実態に合わせた学級・授業づくり（声かけや説明の仕方、目当ての提示、ＵＤフォントの活用等）が実践されている。
		○個に応じた支援の実践	○学校不適応行動の未然防止・早期対応・支援の実践と引き継ぎ	○生徒の情報や状況をとりまとめ、情報共有する ○配慮が必要な生徒の個別の教育支援計画・指導計画の作成 ○関係機関（ＳＣ・SSW・医療機関・巡回相談等）と連携した生徒支援体制の構築 ○ケース会議の実施 ○支援の引き継ぎの実践	A	○生徒についての情報共有と関係機関との連携はできた。 ○生徒の困り感に寄り添った対応や関わりについて、きめ細かな対応ができた。 ○個別の教育支援計画・指導計画の作成について年間計画通りに実施ができた。 ○SC・SSW・巡回相談員との連携を図ることができた。
	通級制度の確立	○個に応じた自立活動の授業の実践	○自立活動理解の啓発 ○自立活動の授業スキルの向上	○通級制度についての啓発活動（生徒・職員・保護者・中学校等） ○通級での学びと職員の関わりの連携 ○担当者の研修参加 ○授業のPDＣＡサイクルの実践	A	○県の研修会で通級の実践事例を発表し、本校の特別支援教育、通級による指導の取組を認知してもらい、共有ができた。 ○通級による指導を複数の職員で担当し、職員の連携、職員のスキル向上につなげることができた。

地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	コミュニティ・スクールによる地域との連携	○今年度から開始されるため、機能的な連携協力体制の構築	○開かれた学校であるために、様々な意見等の学校教育活動への反映	○学校運営協議会をとおし、外部有識者からの視点で教育活動の点検の実施	B	○コロナ禍の中ではあるが、可能な範囲での連携は行えた。次年度へ向けて、課題を整理したい。
	荒尾市との共働による地域と学校の活性化	○ＳＧＬＨ事業の推進 ○地域イベント参加による市への貢献	○地域資源の活用とグローカル人材の育成 ○生徒会を中心とし、生徒主体でのイベント参加	○地域探究活動の実施と地域の活動への参加 ○地元中学校との部活動交流 ○「FMたんと」への出演・企画立案 ○荒尾市未来づくり会議への積極的参加	A	◯総合探究の時間に地域探究ができた。 ◯荒尾市の支援を受け、「FMたんと」でのラジオ番組を企画することができた。 ◯ラグビー部、美術部が中高連携事業で中学生と交流することができた。 ◯荒尾市社会福祉協議会ワークキャンプ、荒尾市ＳＤＧｓワークショップに参加できた。
		○学校の特性を生かしたタイアップ行事の実現	○「岱志塾」や「タグラグビー教室」の実施充実	○岱志塾の実施 ○タグラグビー教室の実施	A	◯今年度は岱志塾が実施できた。書道教室を新しく開講した。また、荒尾市子ども学び塾においても同教室を開講できた。 ◯タグラグビー教室を開催し、地域に貢献することができた。
環境教育	美化活動の充実	○生徒主体の環境美化 ○全校での環境教育推進活動の実践	○環境美化委員による校内美化評価と全生徒・職員での環境美化推進 ○校内と校外で清掃活動を実施（学期１回）	○月に２回、生徒による美化評価を実施し、日常の環境美化を促進 ○校外清掃活動については荒尾市と連携しながら実施	A	○コロナ禍の中、校外清掃活動を実施することができ、生徒も積極的に参加した。
	地球環境保全活動の推進	○学校版環境ＩＳＯの取組の充実	○省エネ・リサイクル活動の全生徒・全職員による取り組み推進 ○資源の有効活用	○電気・水道使用量を前年度と比較、「エコ伝言板」で広報 ○裏紙の利用推進	B	○「エコ伝言板」を活用した広報ができなかったが、ごみ分別や不要な電気のこまめな消灯などは積極的にできた。

４　学校関係者評価

○小規模の学校だからこそ、できることがあるのではないか。更なる魅力作りをお願いする。一つの例だが、地域の防災が注目されており、生徒一人一人が、防災士を目指す等の取組も考えられる。
○防災については、高校生の力を借りなければならないところもある。生徒の意識付をお願いしたい。
○同窓会として、予算面での援助は可能な限りお手伝いしたい。大学のオープンキャンパスへの参加にも補助できるかもしれない。
○学校評価アンケートの「学校への満足度」の結果が、２年生で下がって６０％となっている。原因と対策を考えることで魅力化につながるヒントが見えてくるのではないか。
○入学する生徒のことについて、入学前に中学校との引き継ぎが丁寧に行われており、感謝している。
○情報発信が熱心に行われて、その情報で中学校も元気をもらった。今後も続けて欲しい。
○入学後に、中学校までと変わって積極性が出てきたり、明るくなったりしてきた生徒もずいぶんいる。そういう事も発信するとよい。
○コロナ禍で、生徒の悩みも多くなっていると思う。相談しやすい環境作りを更に進めて欲しい。
○通学にスクールバスを活用して成果をあげている高校もあるが、そのような面で生徒募集につながる取組が考えられないか。
○荒尾市との共同事業として「岱志塾」や「子ども学び塾」、また「タグラグビー教室」を開いて

頂き感謝している。
○地域の保護者は、地元の高校に通わせたい気持ちはある。岱志高校に行けば、こんな資格が取得できるなど、アピール材料がつくれないか。
○生徒への特別支援教育や通級指導が丁寧に行われている。これは生徒に寄り添った手厚い指導で、大変すばらしい取組だ。
○キャリアパスポートを有効活用し、中高連携を深め、進路決定の一助として欲しい。

５　総合評価

○学校経営

新型コロナウイルスの影響で防災避難訓練が実施できなかった。しかし、その点を除けば、学校からの情報発信を始め、働き方改革も、進みつつある。今後は生徒募集につながる学校活性化を更に進めていきたい。

【学校評価アンケート】※％は「よくあてはまる＋あてはまる」の数値
職　員：「学校の良い所や生徒のがんばりを保護者や地域に伝えている」８４．８％
生　徒：「学校外で、学校や生徒のがんばりやよい評判を聞くことがある」３８．８％
保護者：「学校の良い所や生徒のがんばりが保護者や地域に伝わっている」６２．０％

○学力向上

「授業を主体とした学力向上の取組」は一定の成果があった。公開授業週間を設定し、職員の参観も多かった。スーパーティーチャーを招いての指導力向上に励んだ教科もあり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善の取組を実施した。

【学校評価アンケート】
職　員：「私は生徒が積極的に参加する授業を行っている」８５．７％
生　徒：「先生方の授業は分かりやすい」７２．２％
保護者：「子どもは、授業を楽しく受けている」５８．３％

「自学力の醸成」について、定期考査前１週間の家庭学習時間平均１５０分を目標としたが、２学期中間考査前が平均６９分（昨年７３分）、２学期期末考査前が平均７４分（同８０分）と目標の半分程度だった。

【学校評価アンケート】
職　員「学校は家庭学習の習慣化や学習意欲を伸ばす工夫をしている」６２．５％
生　徒「毎日、家庭で学習をしている」１５．６％
保護者「子どもは、予習・復習などの家庭学習を行っている」２２．８５％

〈課題〉学習習慣の定着は進路目標の達成につながるが、その前提として、まずは生活習慣の定着を図ることが大切だ。生徒一人一人の学習についての困り感や進路希望を把握し、必要があれば個別指導を行う。

○キャリア教育（進路指導）

コロナ禍のなか、２年生のインターンシップは実施できなかったが、感染対策を行いながら「進路の日」をはじめ、学年を中心に進学や就職についての説明会などを実施したり、オンラインでの企業説明会に参加したりした。

【学校評価アンケート】
職　員「進路に関する取組は生徒の進路意識を高めている」８７．９％
生　徒「進路講演会や説明会などは、進路を考えるよい機会になっている」６８．９％
保護者「子どもは、進路講演会や説明会等への参加をとおして、積極的に進路を考えるようになった」５１．９％
生　徒「進路について不安や悩みがある場合は、先生に相談している」２６．６％

〈課題〉様々な取組を計画的に行ったものの、生徒に浸透していない部分がある。生徒一人一人の適性や進路希望、保護者の考えを把握したうえで指導にあたる必要がある。そのために、進路指導部だけの取組でなく、学校の教育活動全体での進路指導を行いたい。

○生徒指導

「生活指導の充実」について、岱志五原則（時間の厳守、服装の厳正、けじめある生活態度、通学マナーの向上、さわやかな挨拶）を実行し、生活規律の遵守を目指した。昨年度の課題であった職員全体での生活指導にあたることが、できてきた。

大きな交通事故は起こっていないが、組織として、交通安全教育の徹底が図られず、交通ルールについて外部から指摘を受けることもあった。交通ルールとマナーを守ることが自分と他者の命を守ることにつながるということを、自分の事として捉えることができるよう指導を行っていく。

【学校評価アンケート】
職　員「生徒は時間の厳守や身だしなみなど、学校のルールを守っている」５２．９％
生　徒「生活五原則を守り、岱志高生として自信と誇りをもって生活している」
７０．０％
保護者「子どもは、学校のルールを守っている」８３．５％
職　員「本校生は交通ルールやマナーを遵守している」６９．７％
生　徒「交通ルールや交通マナーを守り、交通安全に努めている」８８．９％

○人権教育の推進

「研修の充実及び系統立てた人権教育の実践」について、コロナ禍の影響で校外研修等の中止が続き、研修の機会が少なかったものの、複数回の校内研修や人権教育の学習指導をとおして人権意識を高めることができた。

職　員「私は人権に対する知的理解の深化と人権感覚の高揚のため、関係研修会に積極的に参加している」５９．４％
生　徒「本校では、人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」８０．０％

〈課題〉人権教育はあらゆる教育活動の根幹である。本校は積極的に研修に参加する職員多い一方で、基本的な知識が不足している面もある。来年度は、校外研修への参加を積極的に勧めるとともに、職員が主体的に計画し、学ぶことができる校内研修を実施したい。また、人権を大切にする視点を常に持って、あらゆる教育活動に臨みたい。

○いじめの防止等

昨年度に引き続き「いじめの未然防止（重大事態の再発防止）」を本校の最大の目標とした。
年度初めには、県の基本方針の改訂に基づき、本校の「いじめ防止基本方針」及び「いじめが背景に疑われる重大事態への対応マニュアル」に基づき研修を行った。いじめ防止対策委員会が対象としたいじめの件数は少ないが、なくすことはできなかった。またＳＮＳ上のトラブルも散見され、普段から「何かが起こっているかもとしれない」という意識を持ち素早い対応が必要である。
言語環境の整備について、生徒が不適切な発言をした場合にはきちんと指導している。しかし、不適切な発言はなかなか減らず、継続した指導が必要である。

生　徒「自分だけでなく、他の人も大切にする雰囲気づくりをしている」７２．３％
生　徒「インターネットや携帯電話等を使って他人をおびやかすようなことはしていない」
８４．４％
生　徒「楽しく学校生活を送っている」７５．６％
保護者「子どもは、いじめや差別を許さないという意識を持っている」８９．９％

〈課題〉危機管理部を中心に生徒が抱える課題について情報を収集し、職員で共有することができている。今後は課題解決に向けた方法やスキルを身に付け、生徒の安全・安心を維持したい。ＳＮＳ上のトラブルは学校だけでは解決できない。家庭や関係機関との連携を一層強めていく。

○特別支援教育

危機管理部（生徒支援）が中心となり、①教室に入ることができない生徒への対応、②通級制度、③情報の共有に取り組んだ。全職員が指導のノウハウを得るよう努める必要があり、職員研修、学年会、運営委員会等では情報を共有している。

職　員「私は教育相談に積極的に取り組み、指導・支援に努めている」９３．４％
生　徒「先生方は、悩みや相談に親身になってこたえている」７１．１％
保護者「職員は、生徒の悩みや相談に親身になってこたえている」８１．０％

〈課題〉校内研修は充実しており、職員の意識も高い。通級指導にも積極的に参加する職員も多い。特別支援教育については、職員が担当者に頼る場面が多く、担当者に業務が集中している。そのため、職員全体のスキルアップが課題である。
また、今年度は日頃の担任（副担任）と生徒との面談が増えている。ちょっとした時間や場面を生かして生徒理解に今後も努めていきたい。

○地域連携

「地域における防災拠点づくり（受援対応施設）」については、荒尾市総合防災訓練に職員が参加し、物品の搬入・保管・搬出の方法を確認するなどの活動ができた。昨年度は、コロナ禍のため実施できなかったが、今年度は、ダグラグビー教室、岱志塾、子ども学び塾など、荒尾市と連携し、本校の特色を生かした地域貢献活動が１０回ほど実施できた。また、自主的な活動として、美術工芸コースの生徒による、中学生向けの技術指導も行っている。

○環境教育

「美化活動の充実」について、昨年同様、校外清掃活動を１回実施した。本来は、学期に１回の計画であったが、コロナ禍で昨年同様となってしまった。
校内では、生徒数の割には校地が広く、普段の掃除が行き届かない箇所もあるが、年間１０回程の全校一斉の美化活動で、普段できない場所の清掃活動を職員・生徒が一体となり行っている。

職　員「学校は地域清掃活動により地域貢献を図っている。」	９３．５％
職　員「学校は環境ＩＳＯ宣言項目の啓発・周知を図っている」	３８．７％
生　徒「日頃からゴミの減量や分別、節水、節電などに積極的に取り組み、エコ運動に心がけている」	６５．９％
職　員「学校では、全職員が生徒共に掃除に取り組み、校内美化の充実が図られている」	８７．１％
生　徒「掃除には一生懸命に取り組んでいる」	７６．７％
保護者「学校は、校内の環境美化が行き届いている」	８７．７％

○充実感・満足度

生徒・保護者・教職員・地域が「岱志に来てよかった、岱志にやってよかった、岱志に勤めてよかった、そして岱志がここにあってよかった。」と思える学校を今後も目指す

職　員「本校での勤務は充実している」	８９．９％	（昨年７４．２％）
生　徒「本校に入学してよかった」	７３．３％	（昨年７８．３％）
保護者「子どもを本校に入学させてよかった」	８７．２％	（昨年８２．７％）

６　次年度への課題・改善方策

【次年度の目標】生徒が健康で安心・安全に生活できる学校づくりと生徒確保

（１）いじめの未然防止

ア　「熊本県いじめ調査委員会調査報告書を踏まえた学校の改善について」及び「岱志高等学校いじめ防止等基本方針」に基づいた取組と振り返りの継続
イ　授業規律の回復と言語環境の整備
ウ　生徒の小さな変化に気付く力の向上と相談しやすい環境づくり
エ　ＳＮＳ上のトラブルの早期発見と家庭や関係機関（警察等）との連携

（２）生活規律の遵守と交通安全教育の徹底

ア　岱志五原則に則った基本的生活習慣の定着指導（＝職員全体による指導）
イ　交通ルール・マナーの遵守の徹底と防犯意識の向上
ウ　基本的生活習慣の確立及び授業規律の遵守

（３）学習習慣の定着と授業改善～進路希望の１００％実現～

ア　新学習指導要領に基づく授業の構成と観点別評価の確立
イ　ＩＣＴを活用したわかりやすい授業の実践及び研究
ウ　公開授業・研究授業・授業評価・教科会を核とした授業改善ＰＣＤＡサイクルの確立
エ　学習時間調査の分析と面談の充実

（４）普通科の在り方の検討とコースのさらなる充実・情報発信

ア　プロジェクトチームによる「（普通科）普通コースの在り方」検討の推進
イ　（普通科）体育コース・美術工芸コースの特色に関する情報発信
ウ　荒尾市との連携（荒尾市による岱志高校支援事業）と取組の深化
エ　学校の取組や教育活動を更に地域に周知するための広報活動の徹底